

# Pass on the legacy.



photo: 讃岐国分寺参道/金堂跡礎石

／受け継ぎ、未来につなぐ歴史の証＼

編集: 中條亜希子・広瀬杏子(高松市歴史資料館)/榎田瑤子(菊池寛記念館)/村川祐美(高松市石の民俗資料館)/内田千裕(高松市香南歴史民俗郷土館)/仁木智恵(高松市讃岐国分寺跡資料館)/織田比呂子(高松市埋蔵文化財センター)  
協力: Cynthia Akizuki・上田知美  
発行: 高松市歴史資料館 2022年3月

特集 おかげさまで〇〇年！

讃岐国分寺跡資料館

特別史跡「讃岐国分寺跡」指定70年！

奈良時代、疫病や政変などで疲弊した世を憂えた聖武天皇は、仏教による鎮護国家（国家と人々の安寧）を願い、741年に詔勅を出して、諸国に国分寺と国分尼寺を建立させました。「讃岐国分寺」もその一つで、南北240m、東西220mの広大な寺域であったことが発掘調査から明らかになりました。その地は四国霊場八十八番所讃岐国分寺に引き継がれています。お遍路さんも歩いた讃岐国分寺境内や周囲は奈良時代の遺構がよく残り、学術的価値が高いことから、昭和27年（1952）3月29日に特別史跡に指定されました。その出土品や調査成果を展示しているのが高松市讃岐国分寺跡資料館です。今年度は特別史跡指定70周年を記念した企画展示やイベントを開催します。



史跡公園。10分の1で伽藍を再現しています。

70

菊池寛記念館

大正12年創刊『文藝春秋』100周年！



百

「文藝春秋創刊号ノート」菊池寛記念館にて販売中！

『文藝春秋』は、大正12年（1923）1月に菊池寛によって創刊されました。そこから現在まで刊行され続け、令和4年（2022）で百周年をむかえます。創刊号は菊池寛の自宅で作られ、全28頁という薄いものでした。しかし文字はとて多く、六号活字が四段組にされています。この文字の組方は、現在の『文藝春秋』でも巻頭の随筆欄で踏襲されています。「自分の考えを自由な心持で言いたい」「若い作家たちに発表の場をつくりたい」そんな思いで創られた、歴史ある雑誌です。

100

石の民俗資料館

40

市の無形民俗文化財「石切り唄」指定40年！

「石切り唄」が旧牟礼町から無形民俗文化財に指定され、今年で40年になります。かつて、庵治石の採石場にこだましていた「石切り唄」は、石工たちの間で歌い継がれてきた仕事唄です。作業の機械化が進んだことで徐々に歌われることはなくなりましたが、今でも、石材業に携わる方々で結成された「石切り唄保存会」によって、一人が槌を振るう音に合わせて歌い、他の人が合の手を入れて歌う様が伝承されています。一度聞いてみたい方は、石切り唄保存会が出演するイベントや、資料館の常設展示室の音声解説でも聞くことができます。御観覧の際は、是非ボタンを押してみてください。



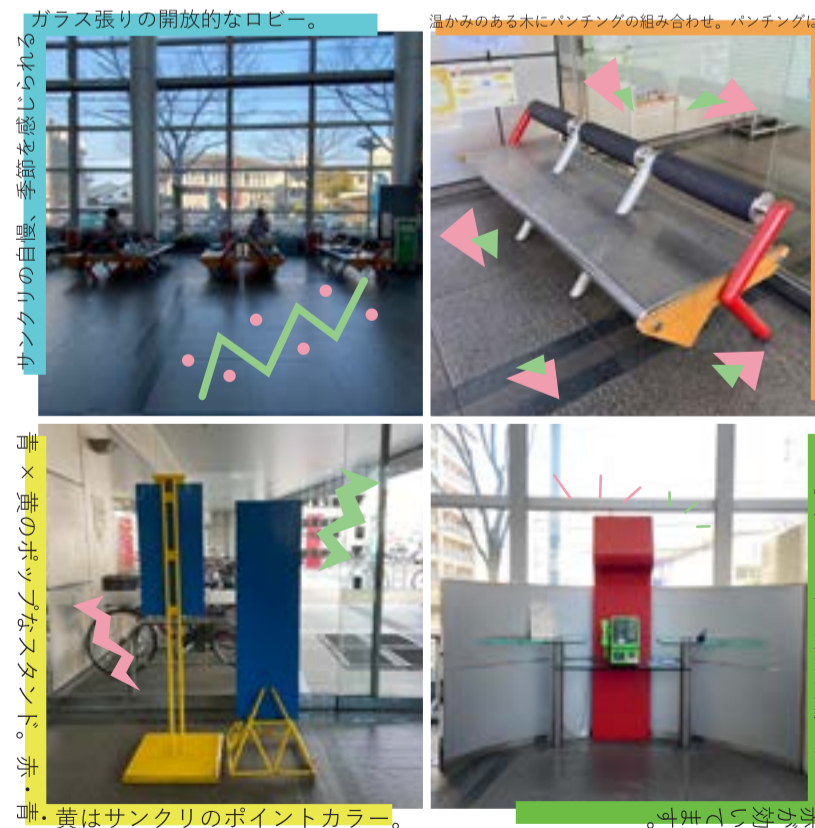
ヤレーー 花は千咲くヨーなる実はひとつ 九百九十九はあだの花エー ヤレロラヨーヨーホイヨー 「石切り唄」の一部「牟礼唄」より

高松市歴史資料館

30

サンクリ30周年！

歴史資料館は、サンクリスタル高松（通称「サンクリ」）4階にあります。平成4年（1992）にオープン、今年めでたく開館30周年を迎えます！このところ「サンクリの建物が素晴らしい」という声をよく頂くようになりました。時代がめぐり、今あらためて当時の意匠が新鮮に受けとめられているようです。いろいろな楽しみ方のできるサンクリですが、今回は「90年代建築のこだわり」に注目！



ガラス張りの開放的なロビー。通りのある木にパンチングの組み合わせ。パンチングはサンクリのシンボルカラー。青×黄はサンクリのポイントカラー。黒×白はサンクリのアクセントカラー。

香南歴史民俗郷土館

25

令和5年開館25周年！

香南歴史民俗郷土館は、平成10年（1998）5月に旧香南町の資料館として開館。今まで、「ふるさとを語る地図展」、「化石展」、「空と空港展」、「開館20周年記念まちの文化財」、「往還今昔香南町の道とぎわい」など、様々な企画展を開催してきました。今後も、地域の歴史や文化を身近に感じられるような展示を開催します。これからも香南歴史民俗郷土館をよろしくお願いいたします。



由佐村切絵図 字中屋（平成12年度「ふるさとを語る地図展」展示資料） 当館蔵の香南町地引絵図を写真撮影し、変遷を見られるよう展示しました。



中山城山生誕260年 儒学者の中山城山は、宝暦13年（1763）香川郡横井村（現：香南町横井）生まれ。晩年には讃岐の歴史や旧跡を調べた『全讃史』を書きあげ、郷土史研究に欠かせない貴重な資料を残した人物です。令和5年（2023）2月に生誕260年を迎えます。

高松市埋蔵文化財センター

10

センターopen10周年！

高松市埋蔵文化財センターは、平成24年（2012）8月1日に開所しました。地面の下に埋もれた文化財（埋蔵文化財＝遺跡）を調査研究し、①保護する②史跡として整備する③調査により得た資料を保存・公開・活用することが主な業務です。遺跡の緊急発掘調査は道路や建物を造る際に遺跡が壊される可能性があるときに行いますが、開発事業の減少から、件数はこの10年間で微減しています。一方、史跡指定を目的とした調査（石清尾山古墳群・勝賀城跡）や、史跡活用に向けた整備（屋嶋城跡・高松城跡・讃岐国分寺跡）等が積極的に進められています。高松の歴史と文化を未来へ伝え、守る。センターの取り組みはこれからも続きます。



亀井戸（移築復元）からセンターを望む

※全ての予定は新型コロナウイルス感染対策などの諸事情により大幅に変更される場合があります。

2022年度スケジュール table with columns for months 4-3 and rows for various museums including Takamatsu City Historical Museum, Kikuchi Kan Memorial Museum, Stone Folk Museum, Kagami History Museum, and Takamatsu City Buried Cultural Property Center.